

28p
&
English
version



氷の娼夫
korinosyofu

ひさの

https://x.com/Queen_Hisano



目の前の男性。
見た感じ、私よりも5つほどは若いだろうか。
彼は、私の加虐の欲求を満たせてくれるらしい…

そう、彼はマゾだ。
そして…娼夫なのだ。
今夜、私は彼を買った。



知り合いに紹介してもらった彼は、
普段はモデルの仕事をしており、
月に2度ほど、副業として娼夫をしているらしい。

だから、体に跡の残るようなプレイはNGだ。

しかし逆に、生殖器への加虐は
余程の事以外は全て大丈夫との事だ。

それにしても…まさかこんなにも美しい子だとは。

それに、氷の様な目…

静かで落ち着いた雰囲気…

本当にこの子はマゾなのだろうか？

今から、私はその体を蹂躪していいのだろうか？

あの…そろそろ行きましょうか？

！
ええ…。

いけない…見とれていた。

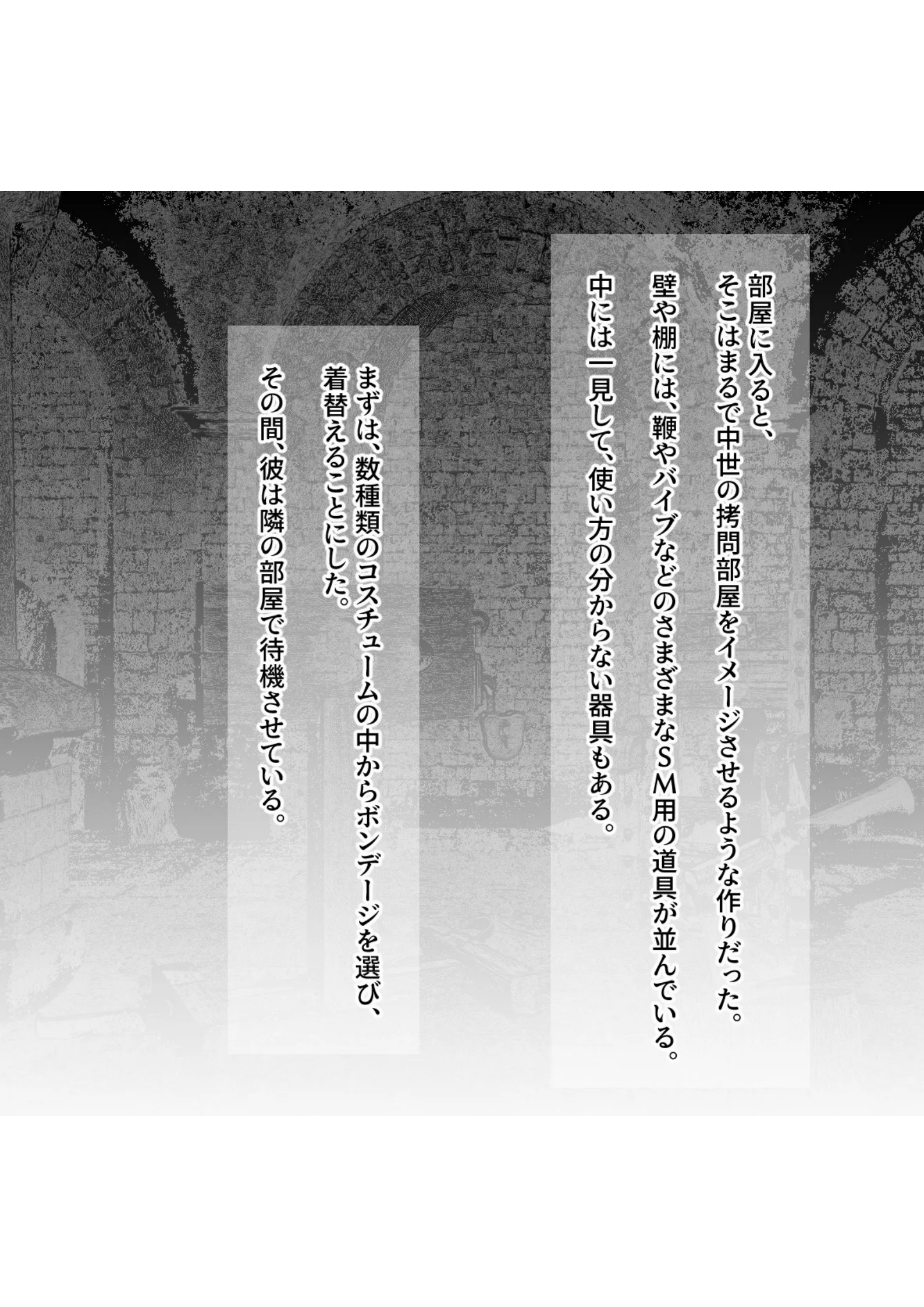
彼に案内されるままに夜のネオン街を抜け、少し静かな場所に出た。

そして目の前にある、落ち着いた雰囲気のホテルに入っていく。

ここはSM等に特化したホテルだと、彼は手短かに説明してくれた。
ここでは、色々な道具も自由に使うことや、

様々なコスチュームに着替える事もできるそうだ。





部屋に入ると、
そこはまるで中世の拷問部屋をイメージさせるような作りだった。
壁や棚には、鞭やバイブなどのさまざまなSM用の道具が並んでいる。
中には一見して、使い方の分からない器具もある。

まずは、数種類のコスチュームの中からボンデージを選び、
着替えることにした。
その間、彼は隣の部屋で待機させている。

初めて着るボンデージは、
たちどころに女性らしさを強調させ、
纏うとやはり気分は高揚してくる。

しかし：自分を鏡で見ても、
まだあまり実感が湧かない。

これから私が、あの美しい彼に
その欲望の全てをぶつけられるのだろうか。

鏡の中のボンデージ姿の自分は、
まるで知らない他人に見えた。



あれこれ考えていても
仕方がない、
待機させていた彼を呼ぼう。

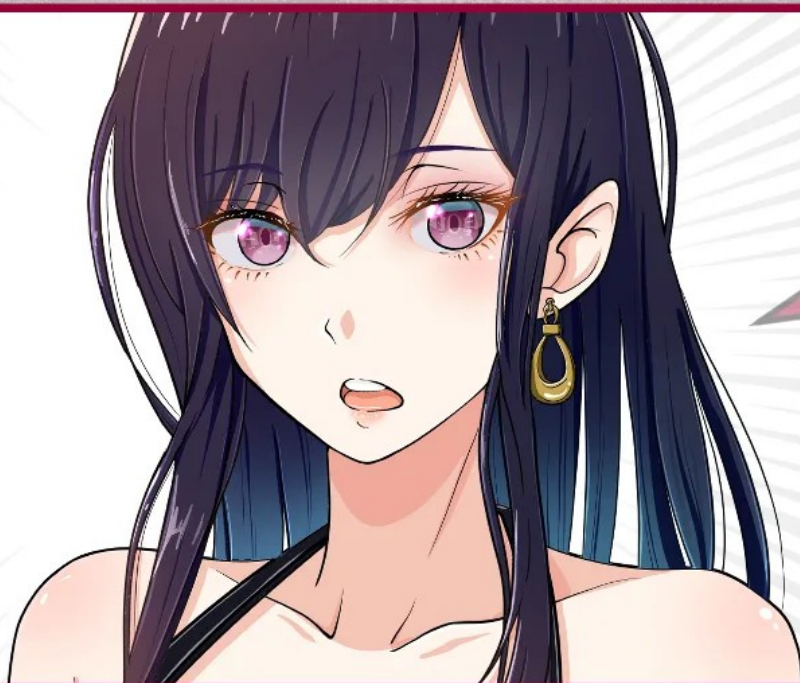
準備ができたわよ
入りなさい

失礼します

ガチャッ

わ……！

部屋に入ってきた
彼を見て私は驚いた。



奴隷らしく彼はすでに全裸で、
股間には男性用の貞操帯であろうか
金属のケージを付けている。

そして、彼は両手を床について挨拶をした。

麻紀様
本日は調教をよろしくお願い致します

今まで、どこか夢の中にいるかのような意識を、
彼のその姿と、奴隷らしい言葉が一気に現実に戻した。
そう、私は調教する側、支配する側として
今日ここに来ているのだ…と知らしめたのだ。



ねえ、その股間に
付けているのは何？



はい
これはコックケージです
勝手に勃起や
射精が出来ないように、
今日の為に
2週間前から付けております

え？

2週間も前から？

じゃあ、

予約をした日から
ずっと…？

プレイの代金として、
決して安くない金額を
払ってはいるが、
そんなにも前から
今日の為に
準備をしてくれて
いるのは嬉しい。

そう、良い子

じゃあ、
汚いマゾ汁がいっぱい
溜まってるって事ね

え？
マゾ汁…
あ…は、はいそうです

さつきまで、あまり
表情を変えなかった彼が、
なぜだか少し
驚いたような顔をした。

ん？
何、どうかした？

い、いえ…急に麻紀様の
雰囲気が変わったので、
驚いてしまいました

とても、
女王様らしくて素敵です

そう…いつの間にか
私は女王様になっていた。
全裸で情けなく
股間に器具を付けている
彼を見て、
加虐のスイッチが
入っていたようだ。

じゃあ、始めましょうか
まずは、
椅子に固定するわね
あ…そっちのじゃなくて、
この木の椅子いすに座りなさい

あえて粗末な椅子に座らせ、
ロープで縛り身動きを封じる。

粗末な椅子と
美しい裸の彼との対比は
私の欲情を煽るのに
十分すぎる程だった。

ふと、彼のペニスを
観察すると
すでに少し
勃起しているのか、
ケージに肉が
食い込んで、
見るからに痛々しい。



ねえ…少し勃起していない？
どうして？

あ…勝手に勃起して
申し訳ございません
その…麻紀様のお姿が
とても魅力的なので…



目の前の美しい男が
私の姿で勃起してしまったなんて、
女としても嬉しい。

ますます、虐めたくなってしまう。

そう…じゃあ勝手に
勃起してしまった罰を
しないとイケないね

そう言って私は
棚に数ある道具から
電マを手にとった。

似たようなタイプを
私も所有しているので
この威力は分かっている。

早速、スイッチを入れて
彼のペニスに押し当てる。





電マの刺激を浴び続け、
ゲージの中でペニスはどうどん肥大し、
ギチギチと音が聞こえそうなほど喰い込み、
ケージの隙間からミチミチと
肉がはみ出すほどになっている。

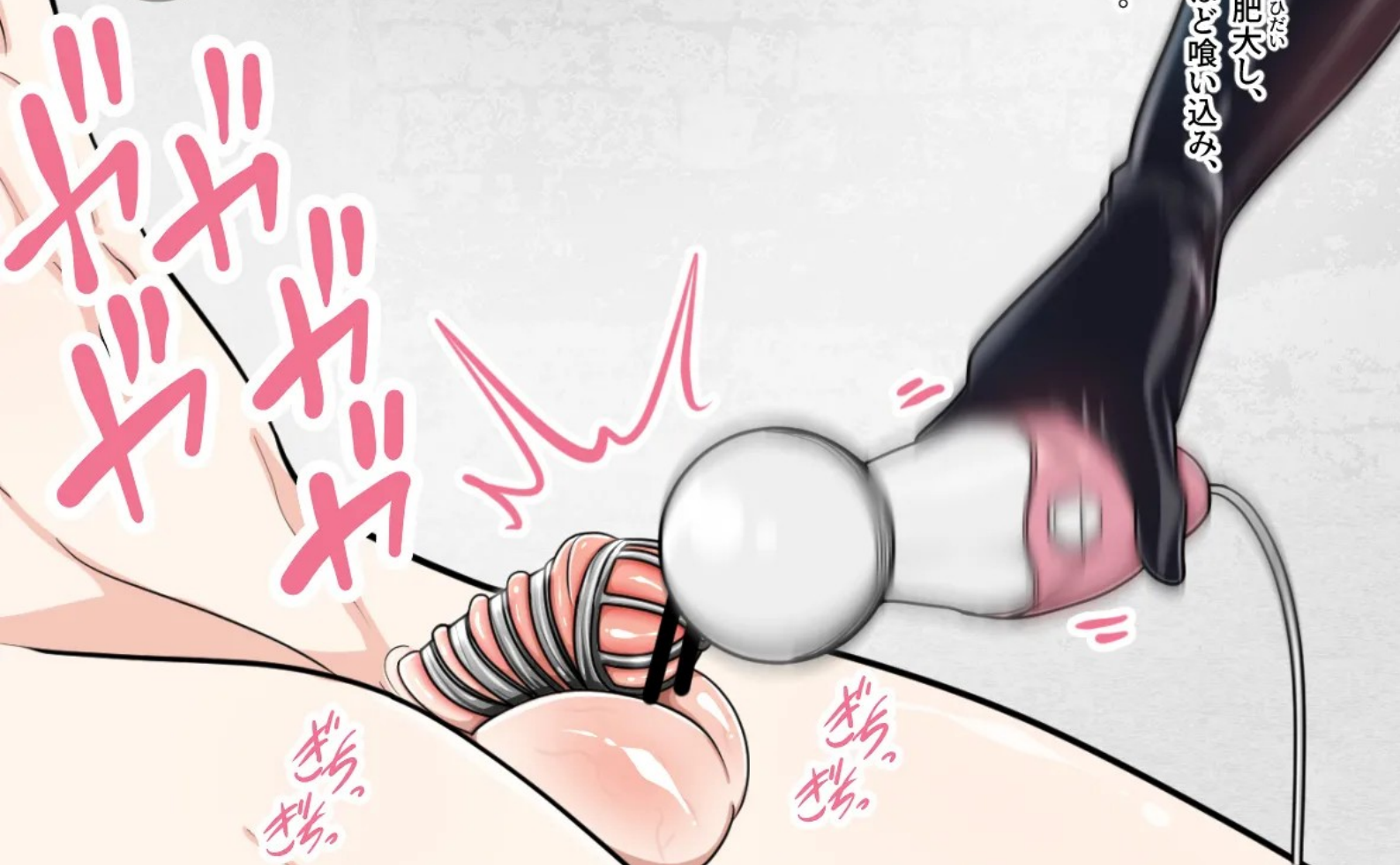
うぐううう

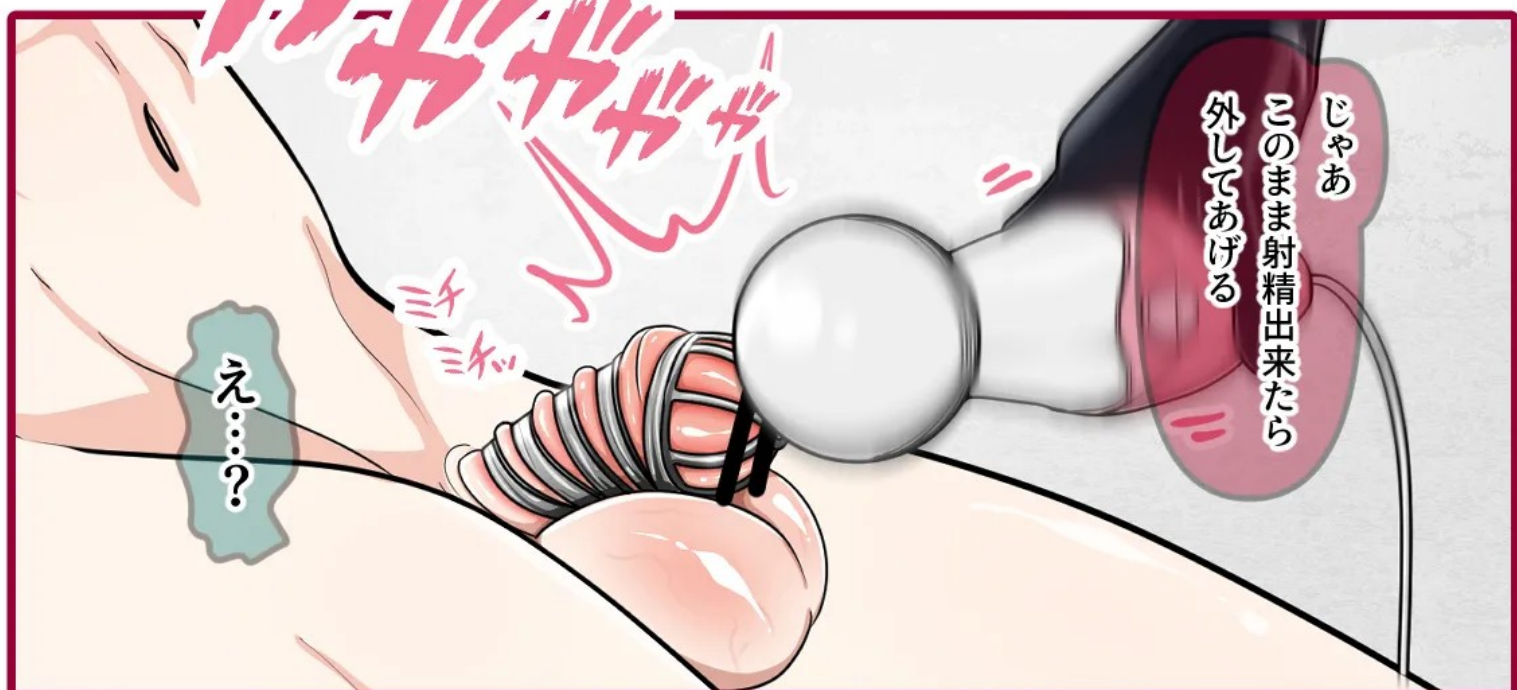
さらに、
そのはみ出したペニスの肉にも
電マを押し当てる。

うごおーっ！

彼は再び大きく呻いた。

あははっ
勃起させたら余計痛いのに
惨めね





ほら、
早く射精しないと
チンポが可哀想よ

ひぎいっ！
コレを付けたまま
なんて無理ですっ！

そんなの知らないわよ
私がやれって言ったらやるの
出来ないなら、
このままずっと苦しんでなさい

あぁあっ！
麻紀様あっ！
うぐううっ！



この中にいっぱい
溜めてるんでしょ？

そう言っつて、今度は睾丸に電マを押し当てる。
二つの玉が振動で暴れているようだ。

さらに、中身が潰れるほどに
強くめり込ませると、彼は悶絶した。

うがあっ！
そ、そっちは弱いんですうっ！
ひぎいっ！

すでに、最初に会ったときの
氷の様な雰囲気はすでに溶け去り、
彼は苦痛に顔を歪ませながら喘いでいる。

ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ
ガ

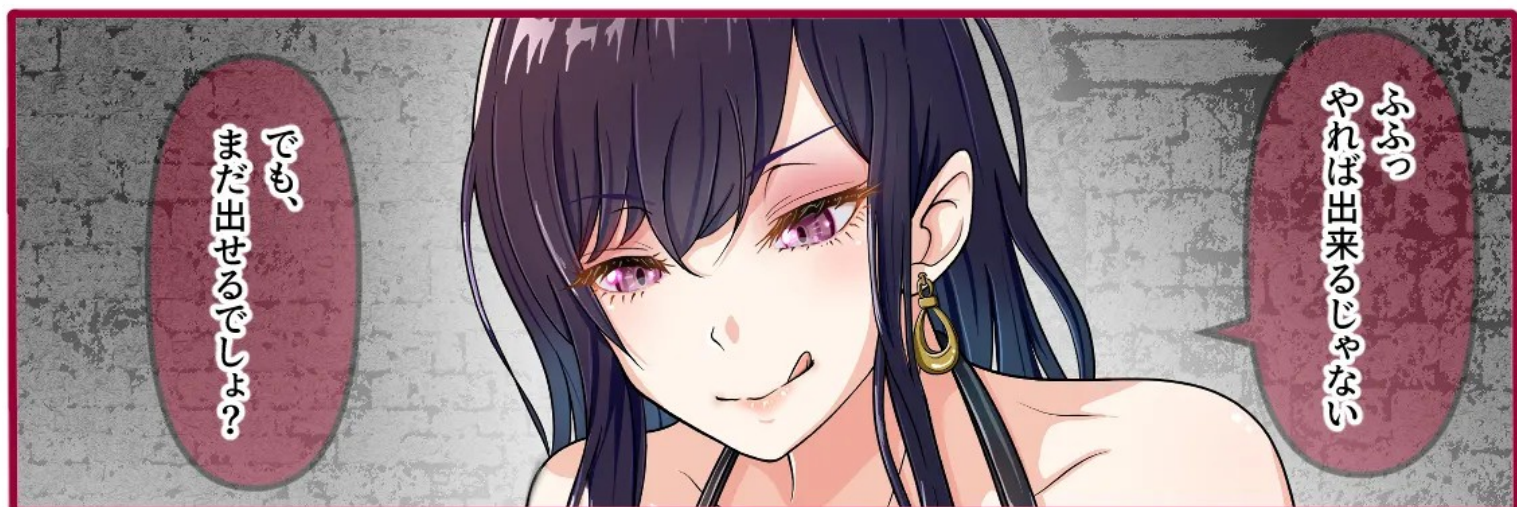
ぎちっ みりっ

小さな金属の檻の中で、
ペニスがますます逃げ場を
求めて悶えている。

マゾの性(さが)なのだろう、
苦しみの中にあっても
勃起が治まることはない。

そして再び
哀れに変形して
しまったペニスに
電マを押し当てると…





ねえ、私はもっと出せって言ってるのよ
本当に壊すわよ、チンポ

うぎいっ！
わっ分かりましたあ！

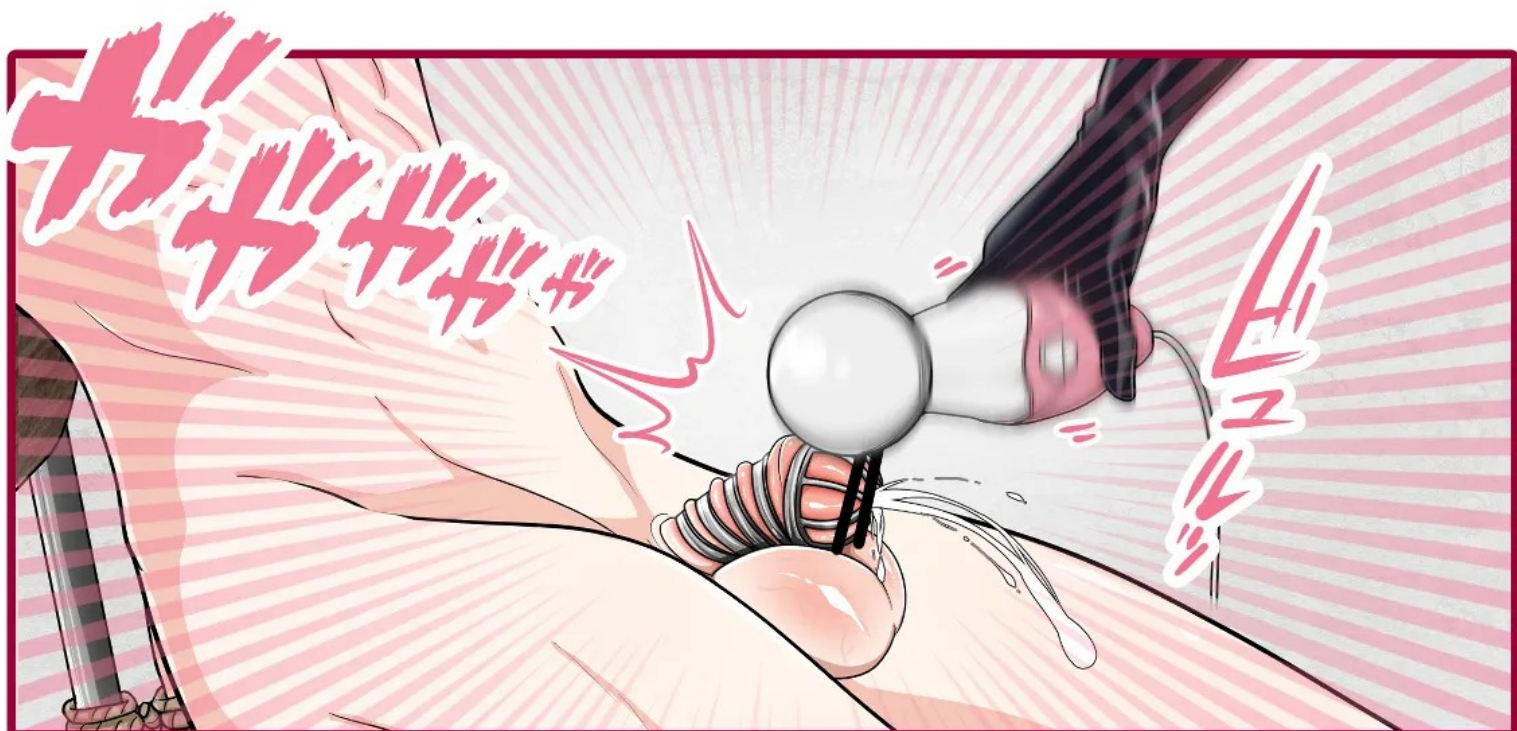
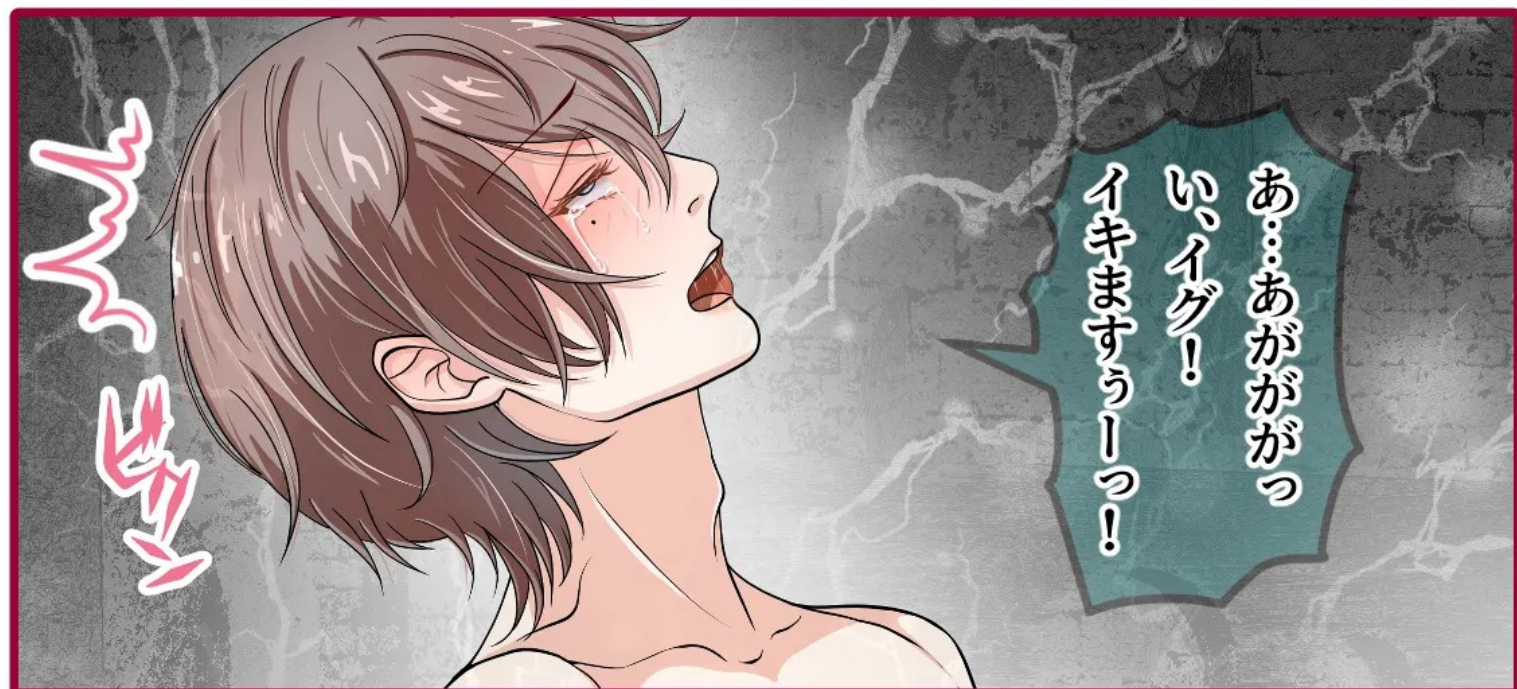
出しますっ
精子だしますう！

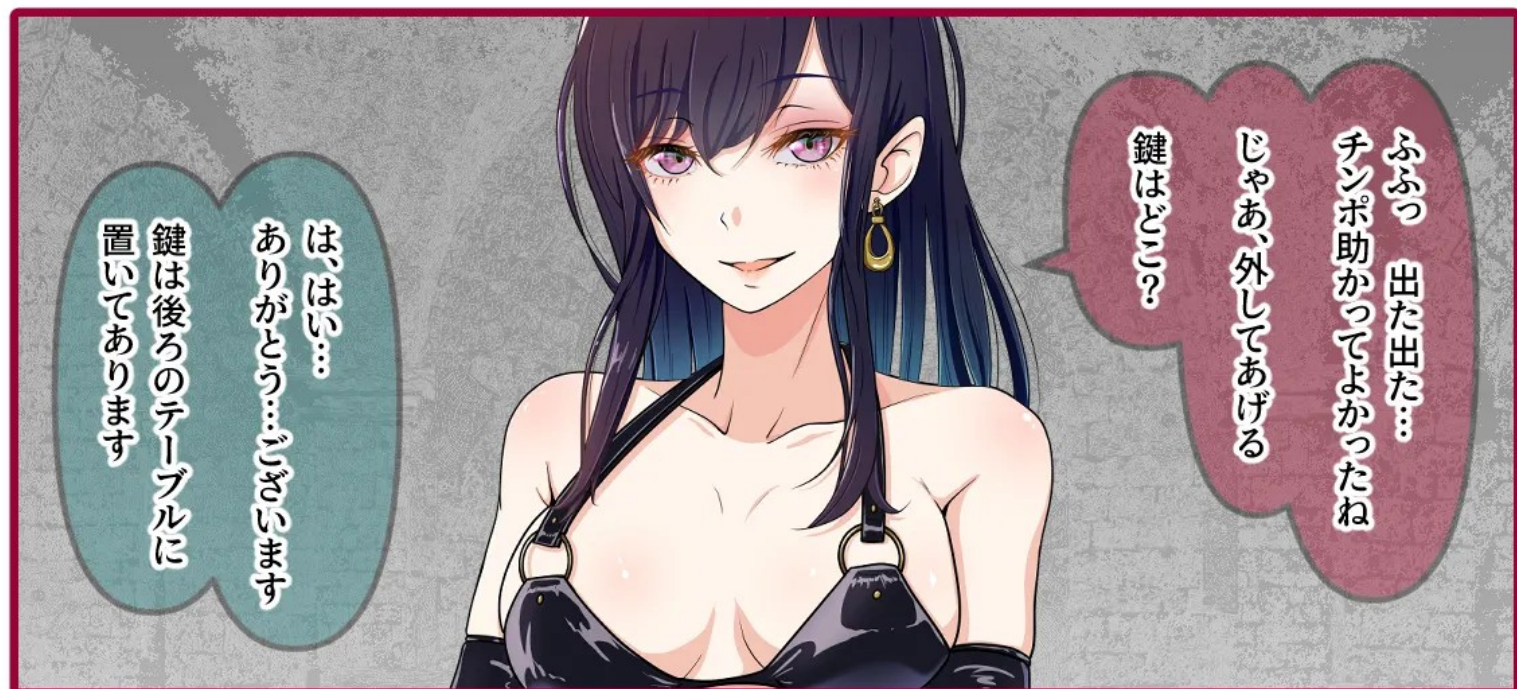
そうそう がんばりなさい
私も手伝ってあげるから、ほらほらっ

ガガガガ
ガガガガ
ガガガガ

かかか
かかか
かかか







ギュッと握ると、芯まで硬い。

これは責めがいいがあるそう。

へー 安心したわ

まだまだ責めて欲しいみたい

私もまだ全然満足してないから…
続き、やるわね

あ…

ギュッ
ギュッ
ギュッ

ビク
ムッ





28p
&
English
version

氷の娼夫



氷の娼夫
korinosyofu

ひさの

twitter.com/Queen_Hisano

立て続けに壮絶な
射精を繰り返され、
彼はすでに疲れ切っているようだ。
しかし、
まだペニスは元気そのもので
たくましく天井を向いている。

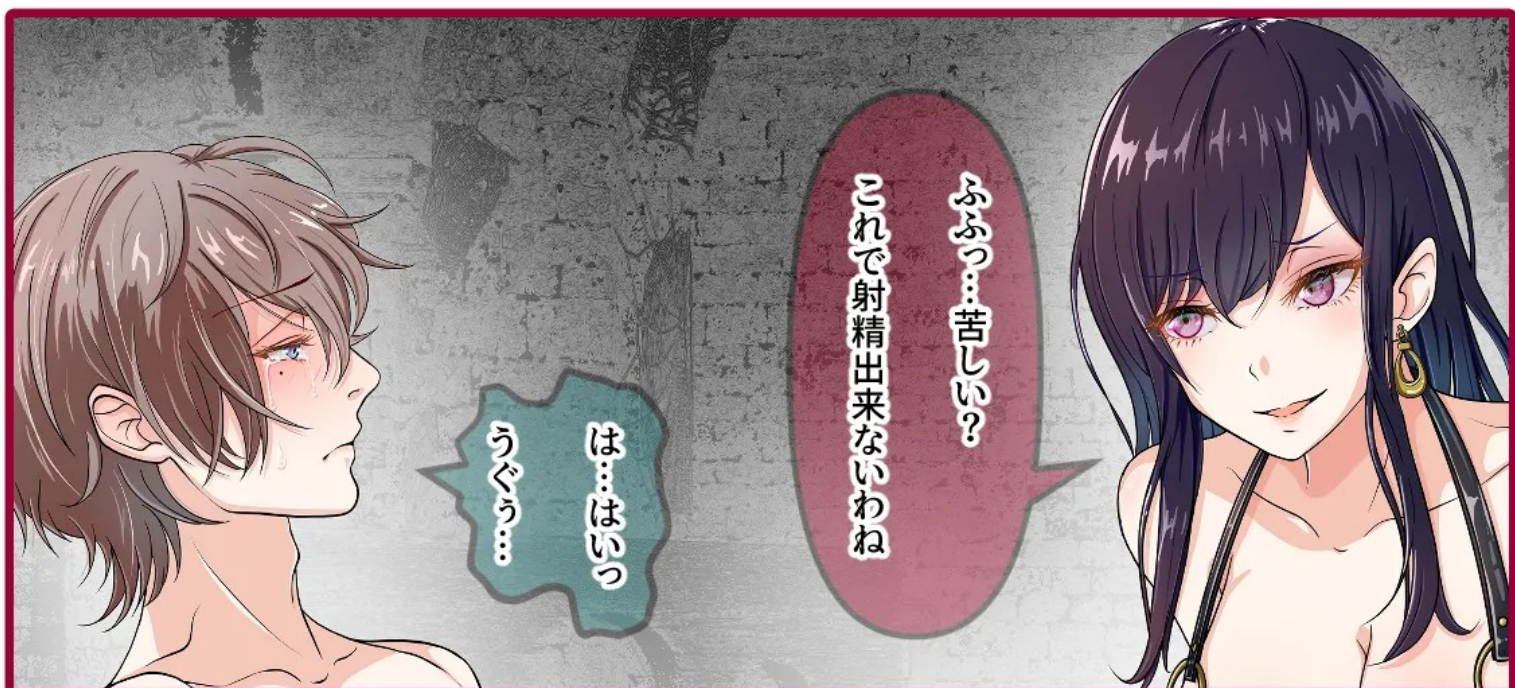


さて、
次は射精出来ないよう
にしましょうか

あまり射精させすぎて、
縮んじやったらつまらないから

私は棚に並べられた
数種類のコックリングから、
金属製の物を選び、
彼のペニスの根元に取り付けた。





再び電マを手に取り、
哀れなペニスに押し当てる。

ああああーっ！

彼の反応を見ながら、
裏筋や亀頭、
時には睾丸を執拗に責めていく。

うううーっ！

んはあああーっ！

フリ
ゴ
フリ
ゴ





イクうつ！

!!

うぎうつ！

あああーっ！

射精出来ない
感覚は初めてだったのか、
彼は目を白黒させている。

ひ、ひいっ！ これダメですうつ！
く、苦しいっ！ あああーっ！

ふふっ イッても
射精できないってどんな感じ？

ビクッ

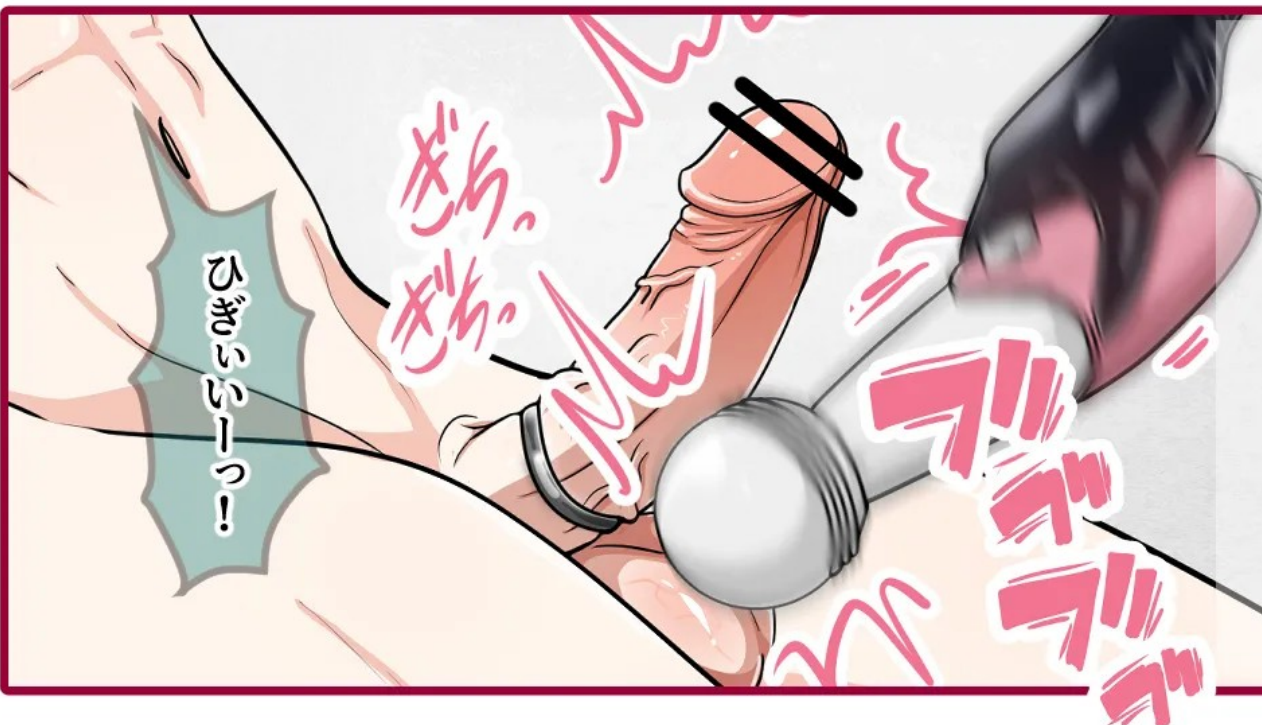
ビクッ

だっ
だっ

グッ
グッ
グッ

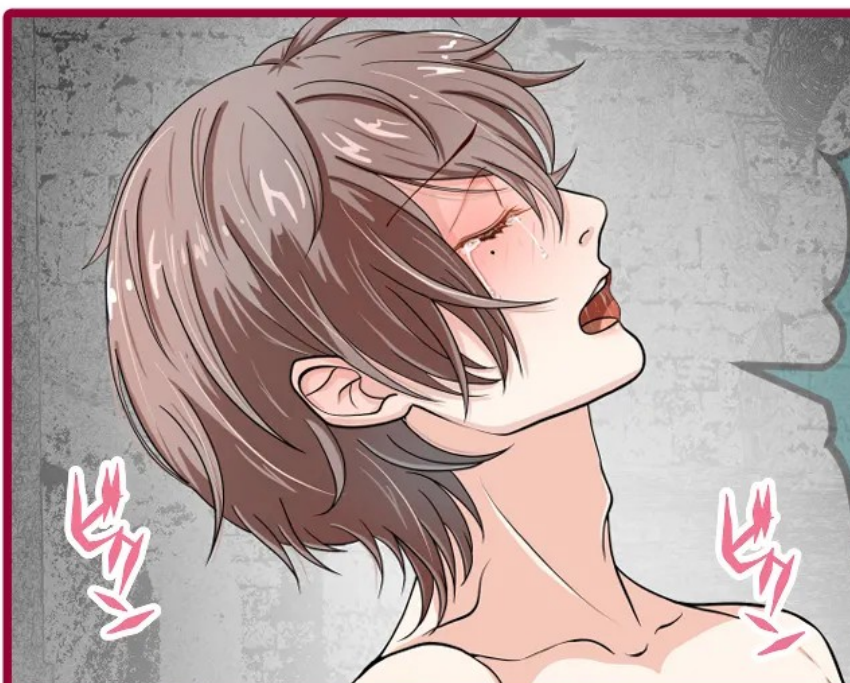


彼の想像以上の悶えっぷりに
ますます興奮した私は、
電マをさらに根元深く強く押しつけた。



余程苦しいのだろう、
ペニスだけで無く、
全身を痙攣させながら悶えている。

ダメッ ダメですっ！
だ、出させて下さいっ！
いぎいっ ま、またイグウっ！
ああーっ！ ツライいっ！



このまま出せない絶頂を
楽しんでもいいのだが、
残酷な苦痛によって
歪む顔も見たい。

じゃあ、次はSMらしく
ロウソクで責めてあげるね

そのパンパンのチンポに
熱いロウを垂らしてあげる

棚には沢山のロウソクが並べられ、
高温から低温まであるらしい。

わたしは、もちろん一番高温の
大きなロウソクを手にとった。

その熱さを知っているのか、
それを見た彼の顔がこわばる。

あああ…あの…
それはとても高温なので…
その…局部以外にお願いします…

先ほどまでの厳しい調教のなかでも、
どこか喜びを宿していた彼の瞳が
はじめて恐怖に満ちている。



しかし、その怯えた瞳は
ますます私を
燃え上がらせるだけだった。

え？ 私に命令してるの？

ふう…自分の立場を分からせてあげる

罰として敏感な所に垂らすから
覚悟しなさい

私は特になんの合図もせずに、溶けて溜まったロウを一気に亀頭に垂らした。

うぎゃああ！

ゼロオ...

ポト

ポト

射精出来ずにパンパンに張った敏感な亀頭が焼けるほどに熱いロウを受け止めた。その瞬間、彼の体がビクンと跳ねた。





ぎゃあ ああ!
熱い! 熱い! っ!

チ、チンポ
焼けちゃいますぅっ!

懇願する彼を横目に、
なおも凶暴な熱さのロウを追加する。

亀頭の上でドロドロと垂れているロウは
その敏感な神経をゆっくりと蹂躪しているようだ。
私は容赦無く、ボタボタとロウを垂らし続ける。

セロオ...

ボト

ボト



本来は生殖の為の
大切な器官をロウで焼いていく。
その背徳的な行為が
私をさらに興奮させる。

次は何をしてやろう。
私はすっかり加虐の虜になっていた。

棚に置かれた、
ある器具が目に入った。

普段は睾丸責めの動画も
よく見るので、
その使い方は知っている。

だが、実際に使うのはもちろん、
実物を見るのも初めてだ。

それは、
ボールクラッシャーと
呼ばれる物で、
睾丸を挟んで
締め上げていくという、
SM用というよりは
もはや拷問器具だ。

垂らしたロウを剥がしながら、
私はそれを使おうと考えた。

手に取ると、金属製のそれは
ズシリと重い。

私がそれを持って
近づくのを見た途端に
彼は青ざめた。

あああ…
それは本当に辛いんです…

へー
そうなんだ
じゃあ楽しみね

私は怯える彼の姿にますます高揚し、
睾丸を乱暴に引っ張ると、
器具に挟み込む。

ぐうっ！

ミチ
ミチッ

ギチッ
ギチッ

まだ挟んだだけなのに、
すでに苦しそうだ。

さらに圧迫していったら
どんな風に苦しむのだろうか

私は躊躇なく
ボルトを回し、
睾丸を締め上げた。

にゅあ
あーっ！

ミチミチと硬い金属が睾丸にメリ込んでいき、
その形を変形させていく。

あまりにも痛々しい光景。

しかし、私がずっと見たいと切望していた光景だ。

うわ…凄いわね

本当に潰れちゃいそう…
ねえ、どんな感じなの？

あがががつ！
く、苦しいですわっ！
く、苦しいですわっ！
圧迫されて苦しいですわっ！



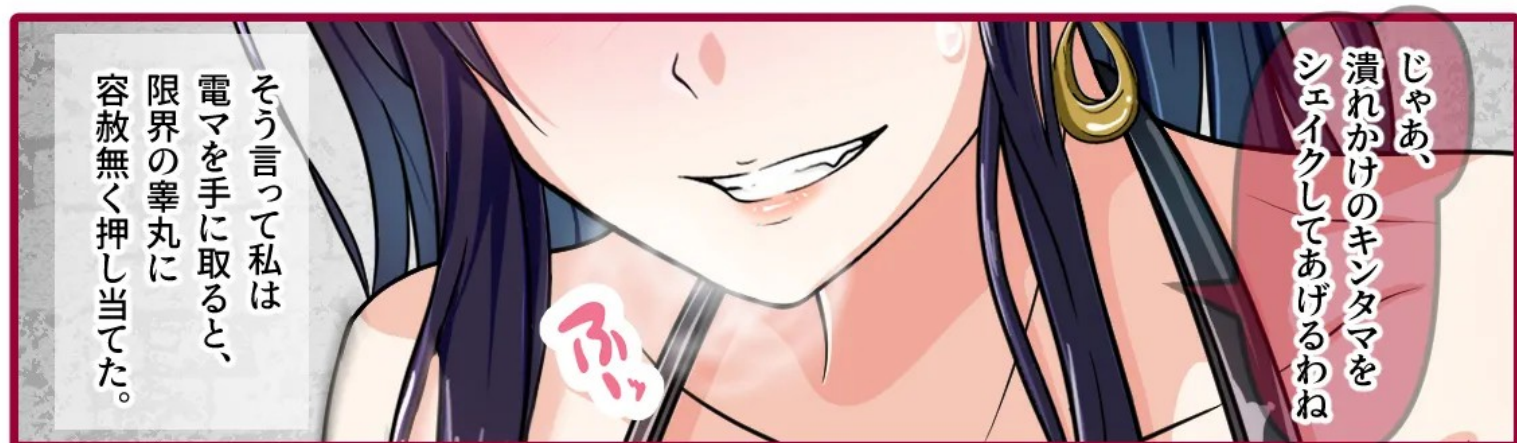
挟み潰された哀れなソレは、
いつ弾けてしまっても
おかしくないほどパンパンになり、
袋の表面の血管はハッキリと浮き出ている。

うどっ おええっ！
ひっひぎいっ！

睾丸は内臓の一部だ。
やはり過剰に締め上げると
気分も悪くなるらしい。

えづき
彼は嘔吐しながら悶絶している。

だが、私はそんな哀れな彼をさらに追い詰めていく。



今度はペニスに押し当てる。

睾丸の痛みで
 小さくなりかけていたペニス
 が再び膨張していく。
 こんな状態でも
 快楽を得られるのは驚きだ。

睾丸の痛みで
 小さくなりかけていたペニス
 が再び膨張していく。
 こんな状態でも
 快楽を得られるのは驚きだ。

**う
う
うっ!**



彼の切羽詰まった様子から、
「お許し下さい」と言うかと思った。

それは事前に決められた
プレイの限界を伝える合い言葉だ。



しかし彼は、絶叫するばかりで、
その言葉を発しない。

私は安心した。
まだ、その体を責めても良いのだ…と。

もつともつと、
本当に壊れてしまおうぐらいの
苦痛と快楽を与えてみたい。

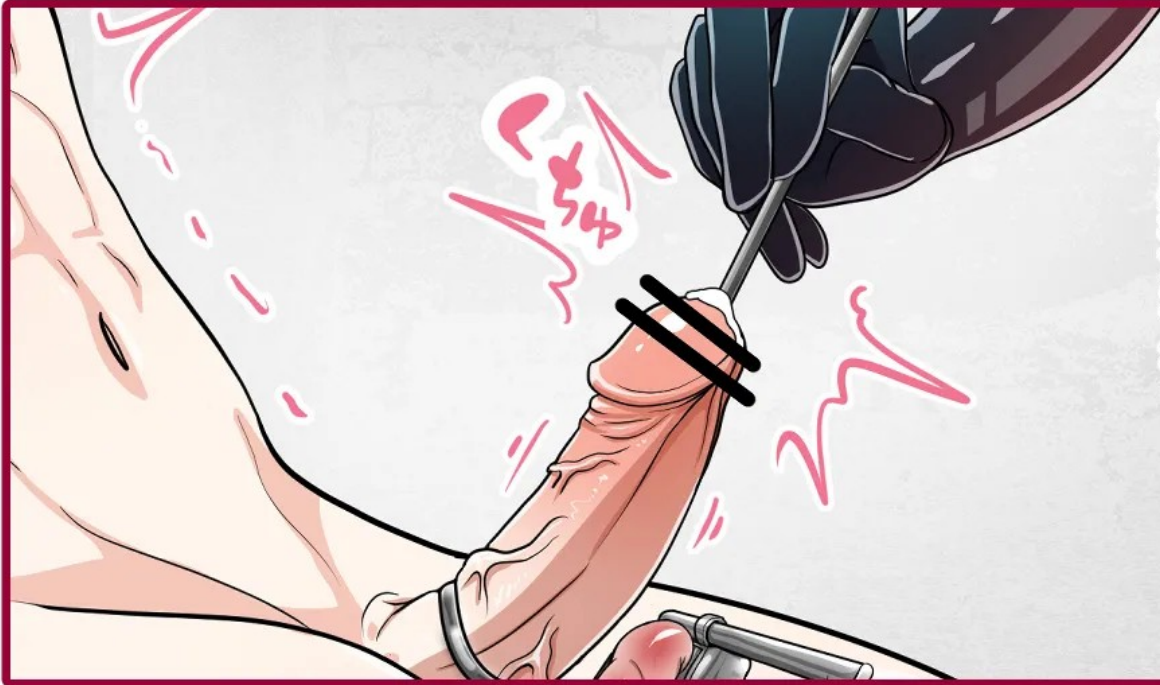
…そんな衝動を抑えられなく
なっているのが自分でもわかる。

私はさらなる刺激を探して
器具の並ぶ棚に目をやると、
ある物に視線が止まった。

それは、ケースの中に入った
数種類のフジだった。

金属製の物、シリコンの物、
長さや太さなど様々だ。





私は太めの金属製の
物を手にとると、
ローションを付け
彼の尿道へあてがう。



次はコレを
チンポに入れてみるわね



うぐうう…!

潰れかけている睾丸の苦痛と
自らの悲鳴で
彼の耳に私の声は
届いていないらしい。
返事もせず、ただただ
うめき声を上げて痙攣している。

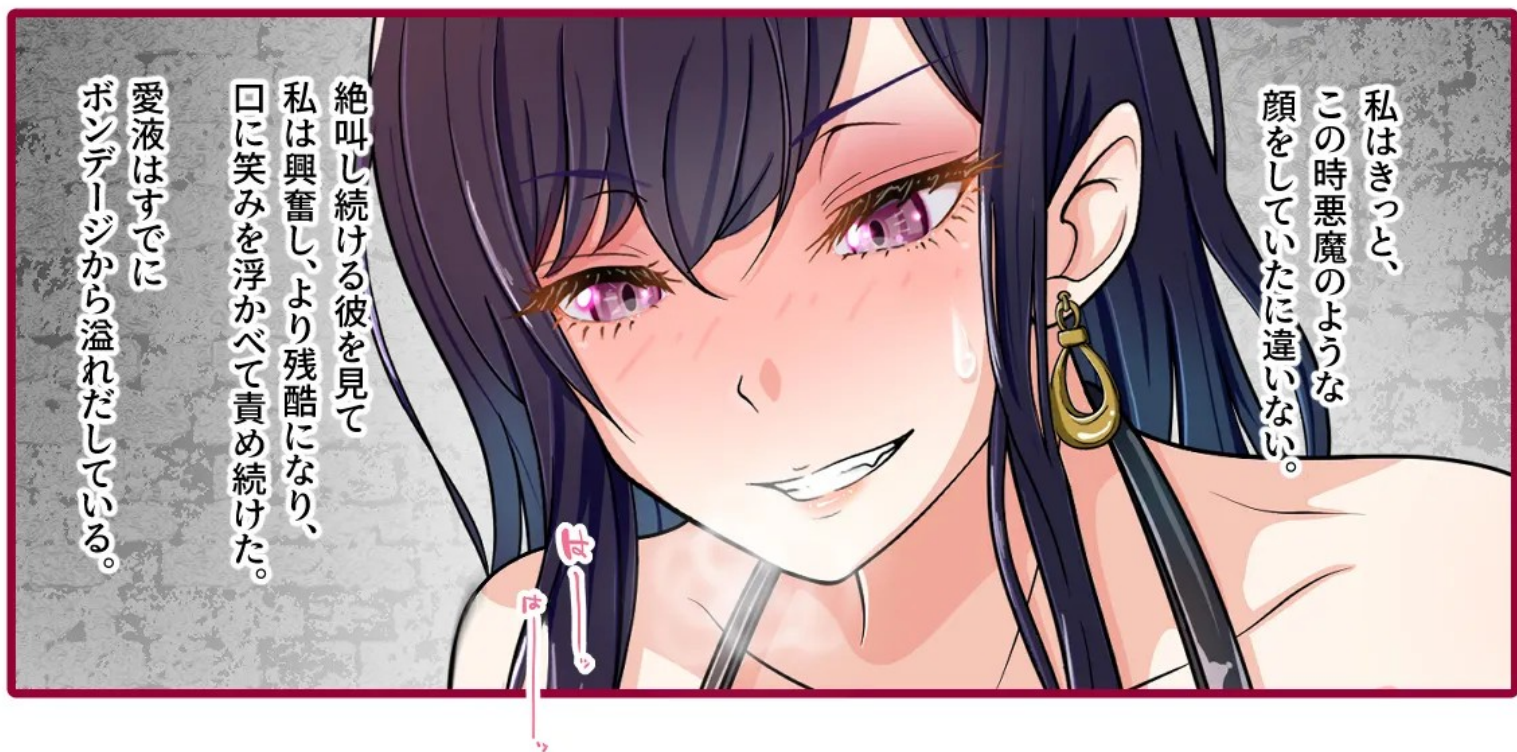
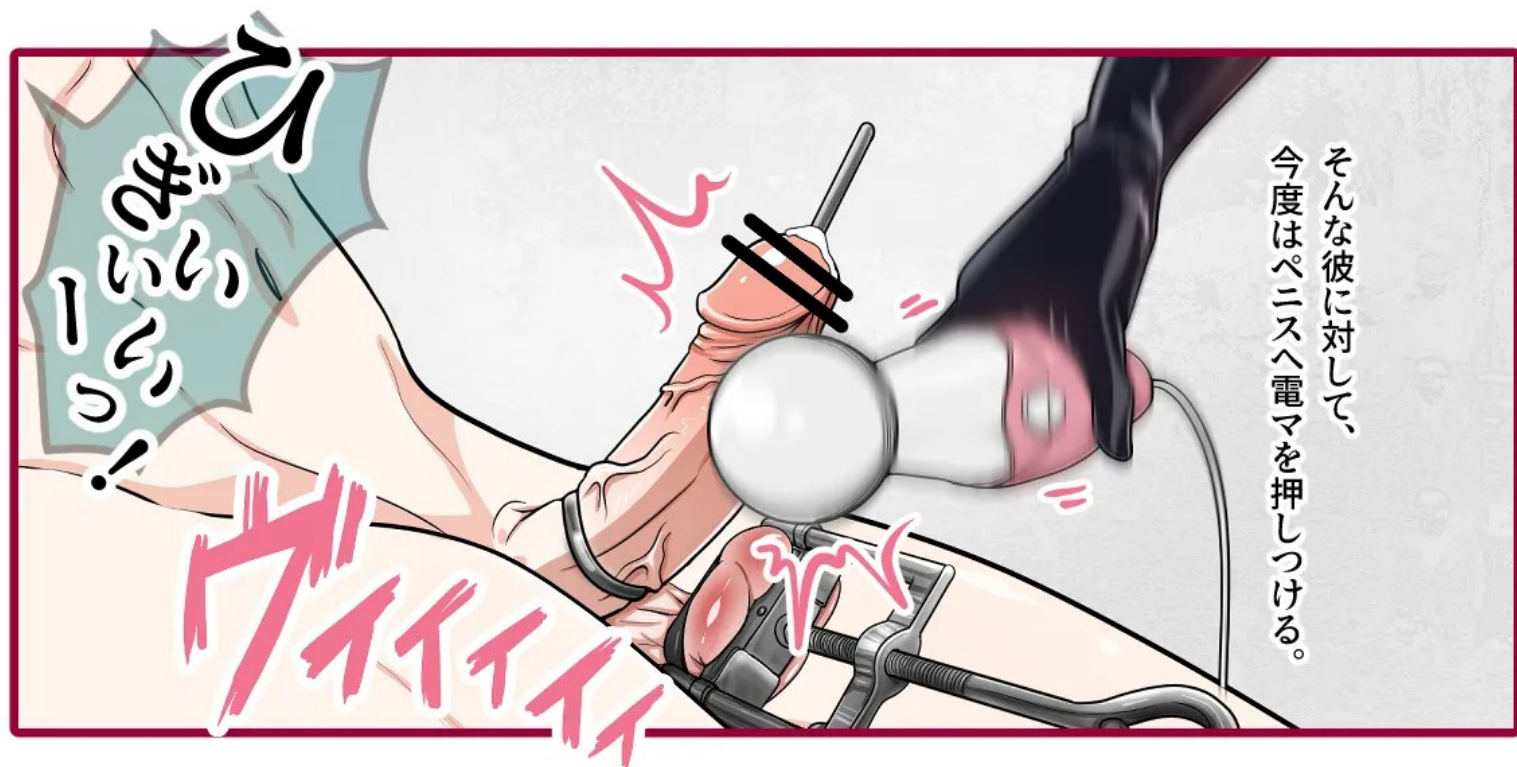
私は構わず
一気に尿道にブジーをねじ込む。

新たな刺激に彼は再びのけぞった。

室内に断末魔の様な悲鳴が響く。

限界を超えた刺激の嵐に
彼は口をパクパクさせ、
感電したかのように体を小刻みに震わせている。





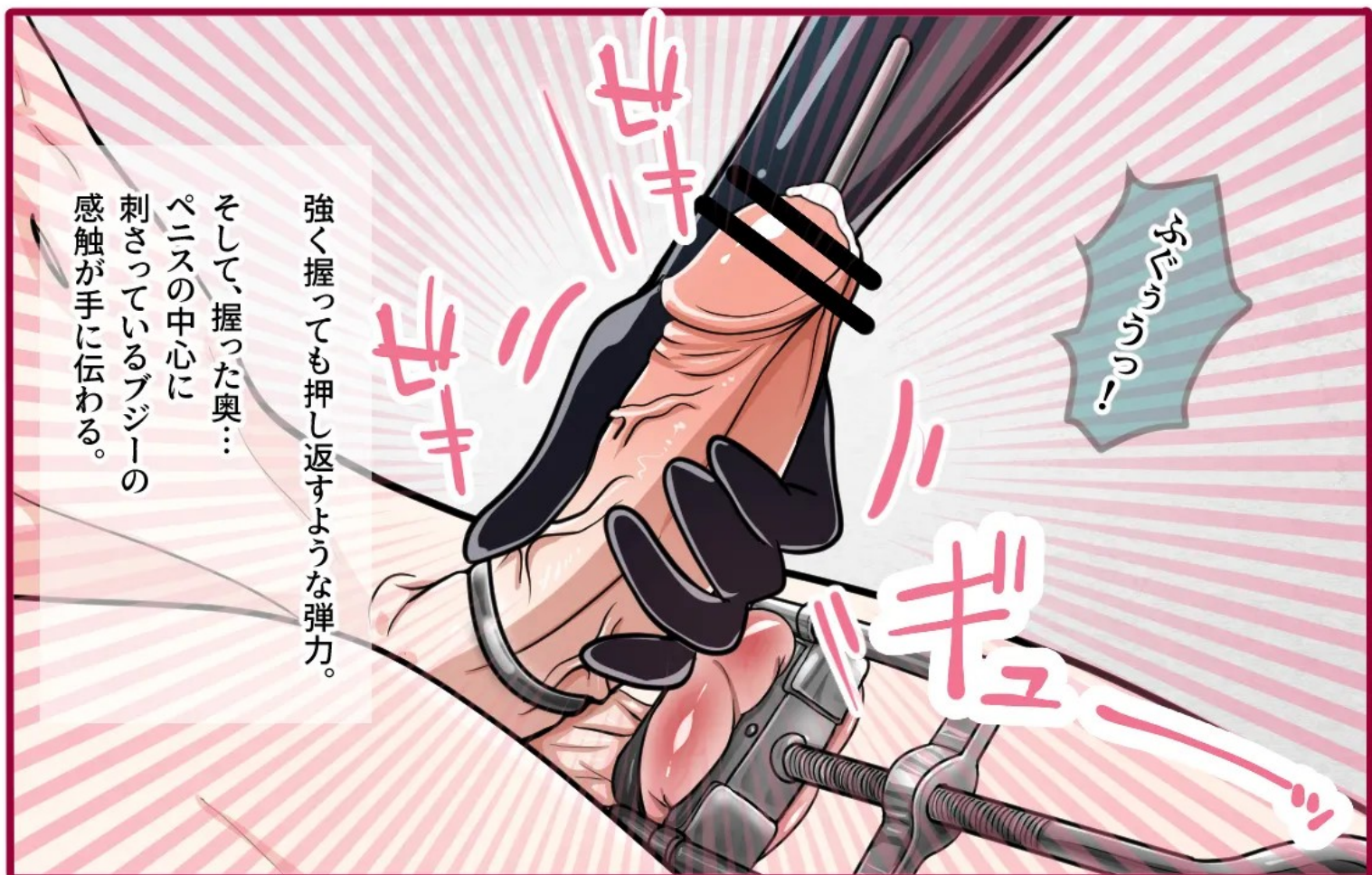


しかし、興奮しているのは私だけではない。

このような苦しみの中でも、
彼のペニスは電マ越しでも
わかるぐらい、
硬くそそり勃っている。

あああっ
あっ!

グ
イ
イ
イ
イ
イ

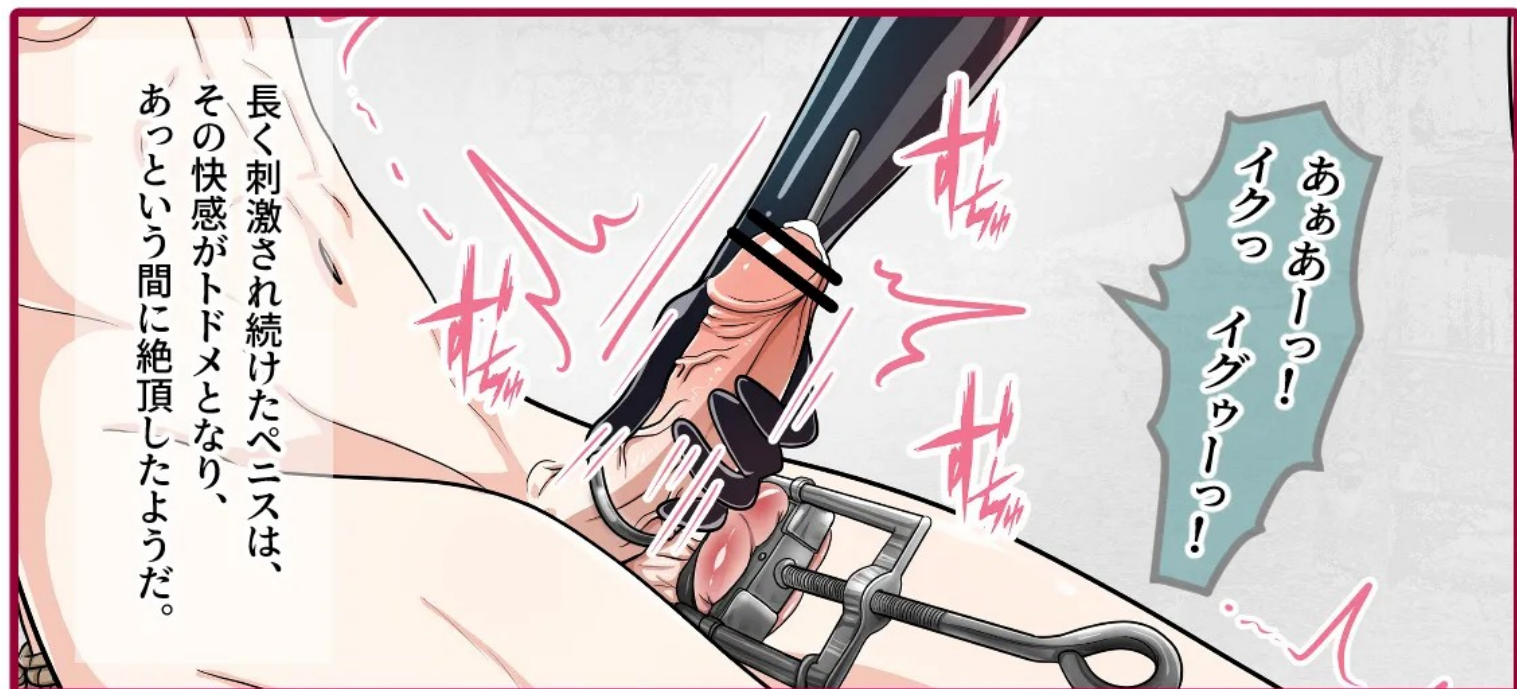


私はそのまま、
ペニスを思い切りシゴきあげた。

一気に射精させるような
容赦の無いストロークに
彼は激しく悶絶する。

あああっ
あぁあっ
あぁあっ





その哀れなペニスをさらに
力任せに抜き抜く。

全身を跳ね上げらせながら
彼は連続でイキ続ける。
逆流した精液は、
限界まで圧迫された辜丸に
戻ること出来ず
暴れ回っているようだ。

じぬっ じぬうっ
イキ死ぬうっ！

うんうん いいよ
マゾチンポ殺してあげるね

ひぎいっ！ 壊れるっ！
チンポ壊れちゃうっ！

今、目の前に広がる光景は、
かつて私が望んだ以上のものだ。

あまりの興奮に、
私も何度か軽くイキ続けている。



…これは、
あくまでプレイなのだから、
責める側は常に
セーフティラインを
考えていなければならない。



だが…それを無視して、
このまま欲望のままに
責め続けてしまおうか…。

そんな考えすら頭をよぎった。

しかしその刹那、
彼の絶叫が理性を戻した。

ぎゃあーっ
ああーっ
！



彼はひとしきり
大きな悲鳴をあげて、
失神してしまった。

私はあわててペニスから手を離し、
彼を確認する。

失神してはいたが、小さくうめき声を上げていた。
それを見てホッとした。
ショックで本当に死んでしまったかと思った。

しかし、次に睾丸に目をやると
再び慌てた。

睾丸は圧迫され続けて、
青黒く変色してしまっている。

う……うう……

急いで器具を外すと血の気を取り戻し、
赤みはあるものの、元の色へと近づいていく。

あぶなかった……

これ以上圧迫し続けていたら

潰れないまでも、

使い物にならなくなっていたかもしれない。



満身創痍の彼だが、
相変わらず

ペニスは勃起している。

根元を締めているため
かもしれないが…。

ボロボロになった彼と、
その勃起した物を交互に見て、
私の欲情は再び熱を帯びてくる。

この、イジメ抜いたペニスを
さらに犯してやろう…

私はまたしても
加虐の虜になっていた。

つづく

13p
&
English
version

氷の娼夫

氷の娼夫
korinosyoufu

ひさの

twitter.com/Queen_Hisano

3









ペニスは根元を
絞っているベルトのせいで、
未だに勃起したままだ。

射精も萎える事もできず、
膣の中で哀れに
痙攣を続けている。



私は今、
先ほど拷問のように責め、
今なお悲鳴をあげている
ペニスを蹂躪している…。

そう考えるとより一層、
興奮が子宮の中から
溢れ出してくるのが分かる。

もっともっと、この私の肉体で泣かせたい。
この硬くそり立つペニスを、私の膣で屈服させたい。

そんな感覚にとらわれながら、
一心不乱に腰を振り続ける。

はあっ はあっ
気持ち良いわ！

ほらほらっ
イイ声を聞かせなさい！

あぐううっ！
ひぎいっ
せ、せめて一度射精させて下さいーっ！
ぎゃああーっ！
お願いしますうーっ



彼はまるで
陸に打ち上げられた
魚のようにビチビチと体を
痙攣させている。

目はまるで焦点が
合っていないようで、
時折白目もむいている。



ひぎいっ！

そして、
私は絶頂が近づきつつあるのを感じた。
それはこれまでのどの快感をも
上回るだろうと予感できた。

私の体の根本から、快楽の波が一気に
押し寄せてくるのが分かったからだ。

最高の絶頂を得るために、
哀れなペニスを
さらに膣で絞り上げていく。



あぁっ
はぁっ はぁっ！
もうイクから、お前も一緒にイクのよ！

溜まりに溜まったその精子、
搾り取ってあげる！

イク時は、
「麻紀様のまんこに負けてイクます」
って言いなさい！

はいっ！ はいっ！
あああイクます！
麻紀様のおまんこに負けて、
イっちゃいますうーっ！

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ

は
は
は
は
は
は



互いの絶頂が交わったとき、彼のペニスのベルトを外してやる。その瞬間、目が眩むほどの快楽の波が私を飲み込んだ！

彼のペニスからは
あり得ないほどの勢いで精子が飛び出し、
子宮にその熱い精子を打ち付けていく！

まるで煮えたぎっているかのような熱さの精子を子宮で受け止め続け、私の絶頂は射精の間ずっと続いている。

彼も余程気持ち良いのだろう、ヨダレを垂らしながらイキ続けている。

んおっ

ま、また
イクっ！

ひきいい
スグッ
スグッ

一、二

ほらっ
タマの中身を全部
ひり出しなさい！

睾丸をさらに
雑巾のように絞り上げると、
また勢いよく精子が飛び出し、
子宮を叩いた。

その間も私は腰を打ちつけ、
睾丸を握り潰しながら
壊れた蛇口の様になって
射精し続けるペニスを
執拗にシゴきあげていった。

快樂だけではなく、
彼を心底屈服させたということが
私を今一度絶頂へと導いていく。

おっ

んあっ！

うじうじうっ！

はっ

はっ

うっ
うっ
うっ



そして、
ようやく長い射精が終わった後も、
しばらく私は
彼のペニスを突き刺したまま、
放心状態だった。

はーッ
はーッ

プレイ時間10分前を知らせる
アラームの音で我に返ると、
ゆっくりとペニスを引き抜いた。

ようやく解放された彼のそれは、
まるで息絶えたように
ダラリとうなだれた。

彼自身も、
まるで壊れた人形のように
ピクリとも動かない。

ねえ…大丈夫？

う…あ…だ、大丈夫です

それよりも、

ありがとうございます…本当に

僕を、永遠に麻紀様の奴隷にしてください

氷が溶け去った彼の目は、
私に対する服従を
宿して潤んでいた。

終わり

